学校番号	３２０

令和３年度　芸術科(書道)

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	書Ⅱ　（教育図書）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・書道Ⅰの授業で学んだことを発展させて、書道Ⅱでは用具用材の違いによる表現の違い等を学びます。
・篆書や隷書、草書の書体を体験し、筆の弾力を使いこなし、自分の想いに適った文字を書くことが出来るようになることをめざします。
・身近に飾れる作品を作ることで達成感を味わい、書を愛好する心情を育てます。

2　学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:書への関心・意欲・態度	b:書表現の構想と工夫	c:創造的な書表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	書が身近なものであることを実感し、書の伝統と文化に関心を持って、主体的に表現や鑑賞ができる態度を育む。	書表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、書の創造的活動の喜びを味わい、自らの意図に基づいて構想し、積極的に表現できる態度を育む。	創造的かつ効果的な書表現をするために、使用する筆記具の特性を理解し、表現方法を選択し活用できるよう、様々な表現技術の習得を目指す。	文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを書の表現意図を、創造的に鑑賞する態度を育む。
評価方法	作品 レポート	作品 レポート	作品	作品 鑑賞レポート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	篆書の学習	・篆書の基本用筆 ・石鼓文の臨書		○	○		a:篆書の変遷に関心を持ち、理解している。 b:篆書をよく観察し、用筆や筆順を意識しながら書いている。 c:篆書を意識して取組み特徴を生かして書くことができる。 d:篆書の表現の特徴を理解している。	・観察 ・提出作品
一学期	隷書の学習	・隷書の基本用筆 ・曹全碑の臨書		○	○		a:隷書の変遷に関心を持ち、理解している。 b:隷書をよく観察し、用筆や筆順を意識しながら書いている。 c:隷書を意識して取組み特徴を生かして書くことができる。 d:隷書の表現の特徴を理解している。	・観察 ・提出作品
一学期	篆刻の学習	・姓名印の制作	○			○	a:印の制作に興味・関心を抱いている。 b:線質、字形、全体の構成などの表現を工夫している。 c:表現を構想し、それを表現するための工夫を考えている。 d:印の美を理解し、自らの表現に生かそうとしている。	・観察 ・提出作品
二学期	草書の学習	・草書の基本用筆 ・書譜の臨書		○	○		a:草書の変遷に関心を持ち、理解している。 b:草書をよく観察し、用筆や筆順を意識しながら書いている。 c:草書を意識して取組み特徴を生かして書くことができる。 d:草書の表現の特徴を理解している。	・観察 ・提出作品

二学期	刻字の学習	・刻字の制作	○			○	a:刻字の制作に興味・関心を抱いている。 b:線質、字形、全体の構成などの表現を工夫している。 c:表現を構想し、それを表現するための工夫を考えている。 d:刻字の美を理解し、自らの表現に生かそうとしている。	・観察 ・提出作品
三学期	漢字仮名交じりの書の学習	・意図に即した表現 ・全体の構成の工夫	○			○	a:漢字仮名交じりの書に興味・関心を抱いている。 b:線質、字形、全体の構成などの表現を工夫している。 c:表現を構想し、それを表現するための工夫を考えている。 d:名筆の鑑賞に基づき表現を工夫し、自らの表現に生かそうとしている。	・観察 ・提出作品

※　表中の観点について　a:書への関心・意欲・態度　b:書表現の構想と工夫
c:創造的な書表現の技能　d:鑑賞の能力

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。